

## ITUAJより

### お知らせ

ITUのことを知りたいと思ったとき、ITUの会で困ったとき、必ず役に立つ本、「これでわかるITU」の2017年版を発行しました。専門分野のみならず、ITUの全体を知るためのバイブルとして制作しました。2016年には、世界電気通信標準化総会が開催されました。その結果を踏まえ、ITU-T情報を更新するとともに、ITU全体の構成も修正しています。今年では従来のPAPER版に加え、DVD版もご用意しております。是非お手元に常備ください。



詳細・お申し込みはこちらです。

[https://www.ituaj.jp/?page\\_id=8456](https://www.ituaj.jp/?page_id=8456)

## ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら [https://www.ituaj.jp/?page\\_id=793](https://www.ituaj.jp/?page_id=793)

## 編集委員

|     |       |                  |
|-----|-------|------------------|
| 委員長 | 亀山 渉  | 早稲田大学            |
| 委員  | 白江 久純 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 高木 世紀 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 三宅雄一郎 | 総務省 国際戦略局        |
| 〃   | 網野 尚子 | 総務省 総合通信基盤局      |
| 〃   | 成瀬 由紀 | 国立研究開発法人情報通信研究機構 |
| 〃   | 岩田 秀行 | 日本電信電話株式会社       |
| 〃   | 中山 智美 | KDDI株式会社         |
| 〃   | 福本 史郎 | ソフトバンク株式会社       |
| 〃   | 津田 健吾 | 日本放送協会           |
| 〃   | 山口 淳郎 | 一般社団法人日本民間放送連盟   |
| 〃   | 田中 基晴 | 通信電線線材協会         |
| 〃   | 中兼 晴香 | パナソニック株式会社       |
| 〃   | 牧野 真也 | 三菱電機株式会社         |
| 〃   | 東 充宏  | 富士通株式会社          |
| 〃   | 飯村 優子 | ソニー株式会社          |
| 〃   | 江川 尚志 | 日本電気株式会社         |
| 〃   | 岩崎 哲久 | 株式会社東芝           |
| 〃   | 田中 茂  | 沖電気工業株式会社        |
| 〃   | 三宅 滋  | 株式会社日立製作所        |
| 〃   | 斧原 晃一 | 一般社団法人情報通信技術委員会  |
| 〃   | 菅原 健  | 一般社団法人電波産業会      |
| 顧問  | 小菅 敏夫 | 電気通信大学           |
| 〃   | 齊藤 忠夫 | 一般社団法人ICT-ISAC   |
| 〃   | 橋本 明  | 株式会社NTTドコモ       |
| 〃   | 田中 良明 | 早稲田大学            |

## 編集委員より

### さんま漁業無線局



総務省 国際戦略局 国際協力課

みやけ ゆういちろう  
三宅 雄一郎

先日、目黒のさんま祭りに足を運んだ。この祭りでは毎年、岩手県宮古市で水揚げされた旬のさんまが来場者に振舞われる。会場に到着すると、既に長い行列ができており、私は並ぶことを断念した。しかし、さんまを大きな網で一斉に焼く様はなかなか迫力があり、秋の味覚を遠くから楽しんだ。ところが、今年のおさんまの水揚げには異変が起きており、宮古産のさんまは水揚げがなく、今回の祭りでは北海道産のさんまが急きょ取り寄せられた。こうした事態は、宮城県気仙沼市や岩手県大船渡市でも起きており、現地のさんま祭りが中止もしくは延期に追い込まれている。このような状況を私は特別の思い入れを持って心配している。その理由は私の経歴に由来している。

私は今の国際協力課に配属される前には、宮城県仙台市にある東北総合通信局無線通信部航空海上課に所属していた。そこで私が担当していた業務は、漁船に搭載された無線局の許認可である。これは、漁業者が安全に漁をするために不可欠なものであり、電波法に基づいて審査をした。そうした船の中には大型のものもあり、さんまを遠洋にとりに行く船もあった。それに加えて私は、東日本大震災で被災した海岸局の復旧を補助金により支援するという仕事も行った。支援の対象となったのは岩手県、宮城県、福島県の沿岸部にある漁業用無線局である。復旧を支援した無線局は単なる現状回復ではなく、出力を1Wから5Wに拡大し、そのカバーするエリアは飛躍的に広がった。各県における海岸局の数自体も2から3か所程度に集約され、それらは統合海岸局と呼ばれる。これらの統合海岸局は漁業者の安全を守るものであり、東北地域の漁業の復興の礎となっている。

以上のように私は、漁船の許認可と統合海岸局という2つの切り口から東北地方の漁業に関与してきた。さんまは今年歴史的な不漁となっているが、また宮古や大船渡や気仙沼の漁港に多くのさんまが水揚げされ、活気が戻ってくる日を心待ちにしている。

## ITUジャーナル

Vol.47 No.11 平成29年11月1日発行／毎月1回1日発行

発行人 小笠原倫明

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 森 雄三、大野かおり、石田直子

編集協力 株式会社クリエイト・クルーズ

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会